

【1.体制】

2023年10月、看護師4名体制で訪問看護ステーションみすみ開設

【2.取組内容と実績】

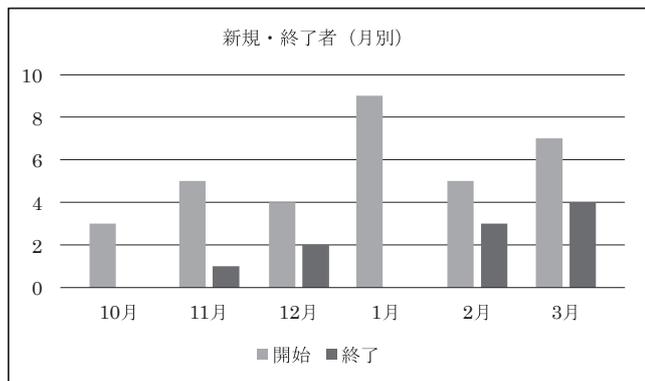
開設に向けた準備、院内職員への周知と勉強会、院外関係職種への周知を行い、2023年10月1日より訪問看護ステーションみすみを開設した。

ステーションの理念には「住み慣れた地域で安心して、その人らしく自立した生活を送ることができるよう、利用者・家族の思いに寄り添い、状態やニーズに合わせた支援を行います」と掲げた。開設後の利用者数は、3月までに30名/月を目標とした。

(1) 利用者数推移について (グラフ1)

利用者数・訪問延件数は10月3名26件、11月7名46件、12月11名78件、1月18名106件、2月22名138件、3月26名145件で、徐々に増えているが、目標数30名/月は達成できなかった。相談件数は52件、うち新規依頼は33件であった。病院からの相談件数が76%とほとんどを占め、次いでケアマネジャーからの依頼が多かった。依頼内容は状態観察、内服管理・確認、保清・入浴支援、在宅酸素管理、CPAP装着指導、緩和ケア、などであった。終了者は10名であり、終了理由は、軽快等2名、死亡8名(内、在宅看取り3件)であった。

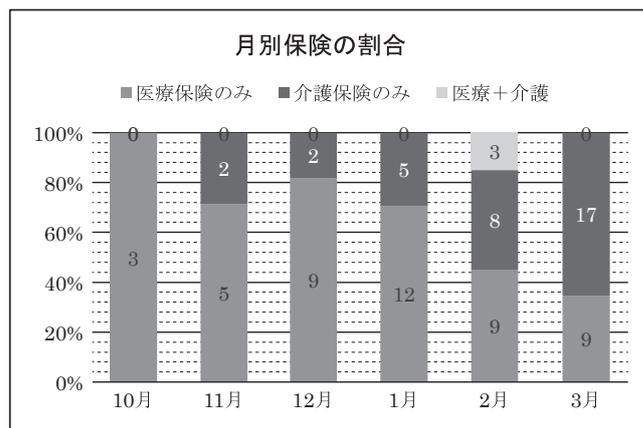
グラフ1



(2) 利用者詳細 (グラフ2)

利用者属性は、男性22名、女性11名、平均年齢77.4歳(男性77.5歳、女性77.0歳)で、介護保険ありは22名であった。地域別では三角町49%、大矢野町39%という結果であった。保険別でみると、医療保険での介入が46%、介護保険が36%、医療保険と介護保険の併用が18%であり、介護保険の割合が増えてきている。

グラフ2



【3.今後の課題】

利用者と家族が在宅で安心して生活できるよう、訪問看護の質向上を第一に取り組み、「みすみ病院の訪問看護を利用して良かった」と思ってもらえるステーションでありたいと考える。病院併設の訪問看護ステーションである強みを活かし、院内職種とスムーズに連携できるような体制作りを行っていきたい。また、複雑化する地域課題に対応できるよう、院外関係職種との連携強化を図り、地域包括ケアシステムにおける訪問看護の役割が発揮できるよう努めたいと考える。